

株主の皆様へ

### 上場会社の「株券電子化」に伴うお知らせ

2009年1月5日から株券が電子化されました。主なご留意点について、次の通りお知らせします。

#### ■ 特別口座について

株券電子化実施に際し、証券会社等に口座開設し証券保管振替機構(以下、ほふり)に株券を預託されなかった株主様の株式については、当社がみずほ信託銀行株式会社に開設しました「特別口座」にて記録・管理されています。

なお、「特別口座」で管理されている株式については、単元未満株式(1,000株)の買取請求・買増請求を除いて売買することができません。株式を売却するためには、証券会社等に口座を開設のうえ、「特別口座」から株式の振替手続きを行う必要があります。

※「特別口座」に記録された株式に関するお手続きにつきましては、下記にお問合わせください。

特別口座の管理機関	みずほ信託銀行株式会社
お問合わせ先	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 ☎ 0120-288-324 受付時間：9:00～17:00(土・日・祝日を除く)

#### ■ 株主様のご住所およびお名前の登録について

株主様のご住所およびお名前の文字に、「ほふり」で指定されていない文字などが含まれている場合には、その全部または一部を「ほふり」が指定した文字に置き換えのうえ、株主名簿に登録しています。このため、株主様にお送りする通知物の宛名などは、「ほふり」が指定した文字となりますので、ご了承ください。株主様のご住所・お名前等として登録・記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問合わせください。

なお、特別口座にて管理させていただいています株主様には、2009年2月に「特別口座開設のご案内」をお送りしており、そのご案内のなかのご注意事項で使用文字の制限についてご案内しています。



Vol.22

第91期 グループ報告書  
2008年4月1日～2009年3月31日



© 2009 Marie Fox Licensed through Mega Press Japan

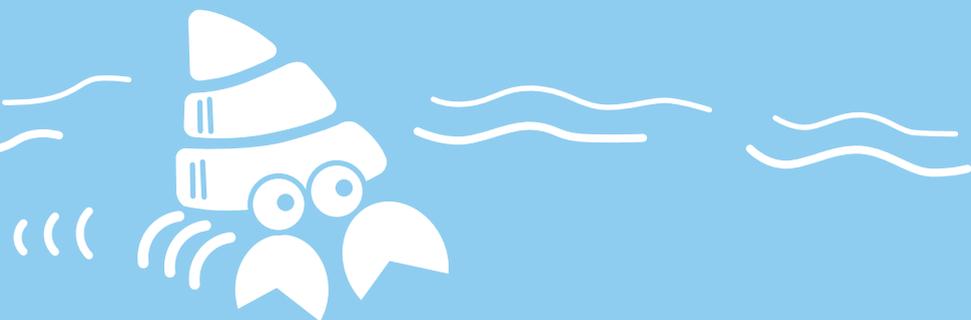


# 「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、グループトータルネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。

## Contents

株主の皆様へ	2
トップインタビュー	3
連結決算ハイライト	7
連結決算概要	8
株主メモ、ご案内	12
TOPICS	13
KEY WORD	15
ニチレイフーズの食育	16
ニチレイECO	17
INTRODUCTION	19
おいしさひと工夫	20
株式の状況	21
会社概要、株主優待制度について	22



### Profile 表紙絵の画家プロフィール Ms. Marie Fox

アメリカ、マサチューセッツ州ダックスバリー出身。川やボート乗り、歴史的な建物などの環境で視覚的な刺激を受けて育った。彼女の作品は、ホワイトハウスのクリスマスカード制作をはじめ、ジグソーパズルやグリーティングカードとして広く使用されています。

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第91期グループ報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当期のわが国経済は、上半期に原油・穀物をはじめとした資源価格が高騰した後、下半期に入ると、世界的な金融システムの混乱や消費不況の影響などから、株価、為替相場、水産物・農畜産物を含む資源価格が急激に変動し、企業収益が大幅に落ち込みました。また、設備投資の抑制や雇用情勢の悪化などにより、景気は過去最悪と言われる水準まで冷え込みました。

食品・物流関連業界におきましては、食品の安全性や表示に関する問題が相次いで発生し、生活者の食の「安全・安心」に対する関心はますます高まるなか、景気後退による消費低迷の影響で低価格志向が顕著となるとともに、全体的な物量が減少するなど非常に厳しい状況が続きました。

このような状況のなか、ニチレイグループは、目まぐるしく変化する事業環境へ適切かつ迅速に対応することを

最優先するとともに、国内外において将来の成長基盤の拡大を推進するなど企業価値の向上に取り組みました。

また、事業会社における資金調達の選択肢が狭まるなか、次期に予定している社債償還や物流センター新設などの設備資金に備え長期借入金を前倒しで調達し、手元流動性を高め財務安全性の確保に努めました。

「攻めと挑戦」の期間として位置づけた「グループ中期経営計画(2007年度～2009年度)」の最終年度にあたる2009年度は、国内の経済成長が過去最悪の水準でマイナスとなる見通しが公表され、引き続き厳しい事業環境が予想されますが、ニチレイグループは、各事業が独自能力を発揮し、事業環境の変化に適切かつ迅速に対応した施策を実行することで、将来の成長へのステップとなるよう収益基盤を強化し、各事業ビジョンの実現に向け邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月吉日

## グループミッション・ビジョン

### ミッション【使命・存在意義】

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

### ビジョン【めざす姿】

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。



代表取締役会長 浦野光人 代表取締役社長 村井利彰



代表取締役社長 村井 利彰

## 厳しい事業環境のなか、果敢な行動力と強靱な適応力を発揮し、未来につながる収益基盤の強化を進めていきます。

2008年度は、食品を取り巻く環境、金融・経済を取り巻く環境と二重の厳しさのなかで推移した1年でした。また、ニチレイグループにとっては、中期経営計画(2007年度～2009年度)も折り返し点を過ぎました。

2008年度を振り返るとともに、「内部統制システム」や「食の安全・安心」の取組みについて、村井代表取締役社長にインタビューをしました。

### Q 厳しいビジネス環境のなか、2008年度の業績結果についてどのように評価されていますか。

グループ中期経営計画(2007年度～2009年度)の2年目の2008年度は、売上高4,745億円(前期比2.4%増)、営業利益151億円(前期比12.7%減)と当初の目標を下回る結果となりました。2008年度下半期のわが国の景気は、「百年に一度の大不況」とまで言われるほど大きな経済環境の変化があったとはいえ、当初の目標数値とは乖離した大変残念な結果となり、2009年度の最終目標を下方修正せざるをえない状況です。この厳しい結果を真摯に受け止め、収益基盤の強化に向けて各事業の課題を明確にし、

重点施策を確実に実行していかなければならないと認識しています。

### Q 各事業の成果と課題についてどのように認識されていますか。

まず、加工食品事業ですが、食品の虚偽表示や違法添加物の混入などの影響を受け、生活者の食の「安全・安心」に対する関心が高まるなか、社会における雇用不安などから消費者の低価格志向が顕著になるなど厳しい状況が続いています。2008年度は、製品・原材料の調達コストの上昇やアセロラ飲料の不振などにより

前年度に比べて営業利益が半減する非常に厳しい結果となりましたが、一方で、タイにおいてチキン事業を営む合弁会社を設立し、より安定した原料調達と製品供給および品質管理の向上が可能となる体制の構築に努めました。2009年度は、収益力の回復を最優先課題として取り組み、高収益が見込まれる商品や中食・惣菜市場で需要の大きいカテゴリーに開発・販売資源を集中し、売上げの拡大を図ります。

次に、低温物流事業ですが、急激な景気後退に伴う物流コスト圧縮へのニーズや環境配慮を背景にした物流共同化への社会的な要請が高まるなか、川下から始まった物流改革は今後も加速すると認識しています。2008年度は、国内外ともに比較的順調に推移し増収となりましたが、燃油サーチャージ負担などの影響により営業利益は前年度を下回る結果となりました。2009年度は、国内では輸配送分野を中心に一層の業容拡大に努めるとともに、老朽化した拠点を廃止し需要の大きい地域へ積極的に設備投資を行います。また、海外ではポーランドにおいて新物流センターを計画通りに稼働させます。

最後に、水産・畜産事業ですが、世界的な消費不況や為替変動などの影響で国内外の水産・畜産物の需給環境が急変する厳しい状況でした。水産事業は、えび加工品など主力商材の採算を改善するとともに、調達部門と営業部門の一体化や事業所の集約などによりコストを削減し、営業黒字化の基盤を構築できました。一方、畜産事業は、大幅な増収となりましたが、利益面

では供給過剰となった国内の輸入鶏肉の価格が急落した影響を避けられず採算が悪化しました。2009年度は、両事業ともに在庫水準の適正化を徹底することでリスクの最小化を図り、安定的に収益を獲得できる体制を構築します。

### Q ニチレイグループの「内部統制システム」の取組み状況(概要)を教えてください。

ニチレイグループでは企業経営理念(P.2 グループミッション・ビジョンなど)、ブランドステートメント(P.1 上部)、および6つの責任を明記したCSR基本方針(P.5 下部)を策定しています。これらの実現には、PDCA(Plan Do Check Act)サイクルがきちんとまわっている内部統制を実践していかなければなりません。

そこでニチレイとして「内部統制システムの基本方針(以下、内部統制基本方針)」を策定し、ニチレイグループ全体の経営マネジメントシステムの向上に努めています。さらに、この内部統制基本方針についても毎年見直しを行い、経営環境の変化などにも対応させています。

この内部統制システムですが、2007年9月に施行された金融商品取引法(以下、金商法)では、特に財務報告の信頼性に関する内部統制システムに焦点を当てて



おり、その徹底が求められています。この金商法に基づいて2008年度からは当社も「2009年3月末時点の財務報告の信頼性に係る内部統制システムの状況」を内部統制報告書に記載して有価証券報告書と併せて提出することになりました。

つまり、株主・投資家の皆様やステークホルダーの方々に信頼される財務報告書を作成しているかどうかを自己評価して提出することになったわけです。

そこで2007年度からニチレイグループ全体のプロジェクトチームを発足させ、企業経営理念、ブランドステートメント、CSR基本方針と内部統制システムの基幹部分である各種会議体、各種規程などを有機的に体系化しなおし、内部統制システムの整備・再構築に取り組んできました。

2008年度は、まず連結ベースで財務報告全体に重要な影響を及ぼす全社的な内部統制について、対象となったニチレイグループ各社を評価し、その上でニチレイ

グループとして最終評価しました。さらに財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼすニチレイグループの業務プロセスならびに事業拠点を選定し、それらの整備状況および運用状況を評価しました。

これらの結果に基づいて「2009年3月末時点の財務報告の信頼性に係る内部統制システムの状況」を内部統制報告書に記載しました。

これまでの取組み状況のなかで感じたのは、役員や従業員が各事業拠点で業務プロセスのなかで決められた基本動作を徹底することの重要性です。過去の経験にとらわれた思い込みや小さな不備・不具合がまったくないわけではありませんが、謙虚に自分たちの現状を評価し、認識することが大事です。その上で、問題点からきちんと取り組むべき課題を設定し、速やかに改善に取り組んでいくことが、社会的責任を果たすことになると考えています。

今後も、株主・投資家の皆様をはじめとしたステークホルダーの方々の信頼向上をめざし有効な内部統制を実践していきたいと思っています。

## Q 「食品企業」として、“信頼回復”に向けての取組みをお聞かせください。

これまでの食品の安全性や偽装に関わる一連の事件・事故の影響で、食品に対する生活者の不信感や疑念はかつてないほどに高まってしまいました。今、食品業界においては、より一層、食品の安全性を確保するとともに、いかに生活者の食品に対する不安感を払拭し、信頼を回復していくかが緊急の課題となっています。

また、消費者庁の新設や関係各法の改正など、食品企業への規制は強化される方向に推移すると考えられます。

ニチレイグループでも、中国産冷凍インゲンの事件では当事者となりましたが、本件ははまだ真相が解明されていません。このような悪意を伴った言わば「食品テロ」に対しては、従来の“フードセイフティ”をしっかり確保するといったことに加え“フードディフェンス”への対応を急がなければならないと考えています。

また、品質衛生の諸問題に対処するため、迅速な情報収集能力と高レベルの品質保証能力の維持・向上を図っています。特に「科学的なデータに基づいた品質保証」の基盤となる、品質検査力については、検査機器の充実や検査員の技術力の向上など更なる強化

に努めています。

品質保証部門の人材育成はもちろん、ニチレイグループ全社員に対する品質教育をさらにステップアップし、業務に反映していくよう努めると同時に、常に品質を重視しているニチレイグループにとっては、逆境であるがゆえに、これを追い風に変えていくチャンスという意気込みで、グループ全体の品質保証力を向上させていきます。



## Q 最後に株主の皆様へ向けてのメッセージをお願いします。

今後も厳しく、かつ変化の大きい経済環境が予想されていますが、ニチレイグループでは各事業がそれぞれの状況にあった打ち手(施策)を適切かつ迅速に実行していきます。

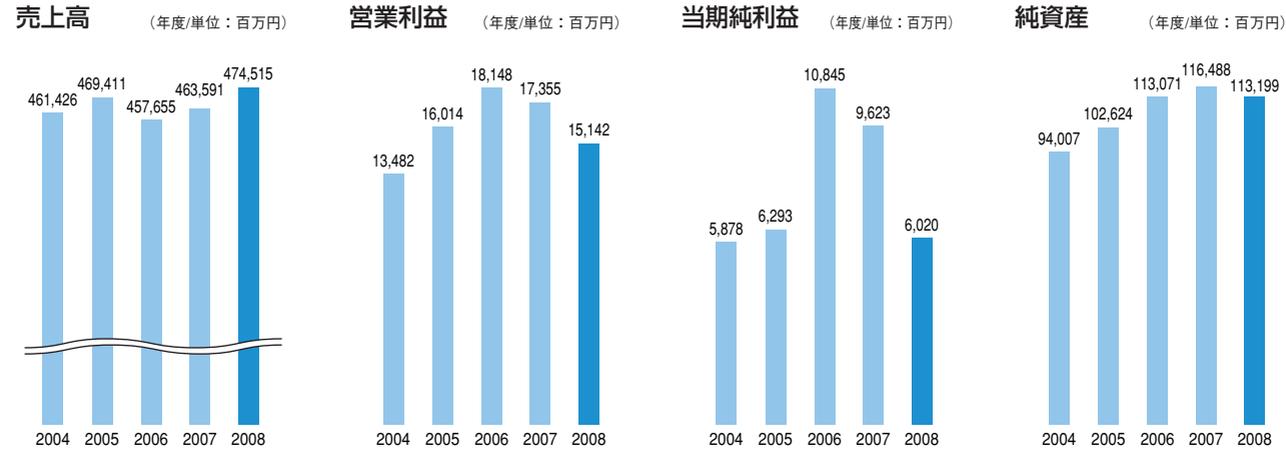
そして、「徹底したお客様第一主義」をつらぬき、企業価値の向上と企業の社会的責任を果たし、皆様から信頼される企業として、社会との調和を図っていきます。

株主の皆様にはなお一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

### CSR基本方針

ニチレイグループでは、経営理念やブランドステートメントの実現に向けて事業活動を行うことが、CSR(企業の社会的責任)であると考えています。そのため、ニチレイグループでは、CSR活動を推進するための基本方針として、「6つの責任」を掲げています。

①新たな顧客価値の創造	新たな商品やサービスを創り出し、生活者の課題解決をする
②働きがいの向上	従業員の働きがいを高める
③コンプライアンスの徹底	法律や規制を守り、倫理性を高める
④コーポレートガバナンスの確立	透明で迅速な経営を行う
⑤環境への配慮	地球環境の負荷を低減する
⑥ニチレイらしい社会貢献の推進	「食」「健康」「スポーツ」をキーワードとした従業員参加型の社会貢献の推進



区 分	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
売上高	百万円	461,426	469,411	457,655	463,591	474,515
営業利益	百万円	13,482	16,014	18,148	17,355	15,142
経常利益	百万円	12,893	15,660	17,388	16,890	14,171
当期純利益	百万円	5,878	6,293	10,845	9,623	6,020
総資産	百万円	276,417	268,501	269,166	257,812	287,296
純資産	百万円	94,007	102,624	113,071	116,488	113,199
1株当たり当期純利益	円	18.45	19.83	34.97	31.04	19.42
1株当たり純資産	円	302.50	330.40	358.08	368.56	357.85
設備投資額	百万円	4,968	6,553	8,958	7,044	13,972
減価償却費	百万円	14,573	14,259	13,167	13,144	13,738
有利子負債	百万円	136,702	114,499	99,431	90,569	110,495
従業員数	名	5,575	5,603	5,711	6,054	6,250

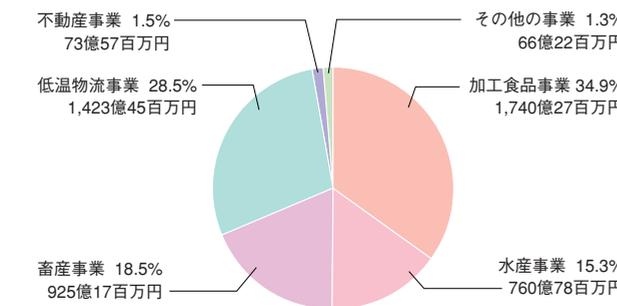
(注)1. 2004年度、2005年度における「純資産」には、会計基準に伴う少数株主持分は含まれていません。  
 2. 2008年度から「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(1993年6月17日(企業会計審議会第一部会)、2007年3月30日改正))および「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(1994年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、2007年3月30日改正))を適用して算出しています。  
 この適用に伴い、2008年度の「有利子負債」にはリース債務を、「減価償却費」にはリース資産を、それぞれ含めた額を記載しています。また、2007年度以前についても、有価証券報告書のリース関係取引の注記事項を基にそれぞれ修正しています。

当期の売上高は、畜産事業における鶏肉の取扱いが大きく伸張したことや、国内外における低温物流事業が順調に推移したことなどから4,745億15百万円(前期比2.4%の増収)となりました。営業利益は、水産事業が6期ぶりに営業黒字を計上したものの、製品・原材料の調達コストの上昇やアセロラ飲料の不振などにより加工食品事業が減益となったことや、輸入畜産物の価格変動の影響を受け畜産事業の採算が悪化したことなどから、151億42百万円(前期比12.7%の減益)となり、経常利益も営業利益の減少を受けて141億71百万円(前期比16.1%の減益)にとどまりました。

特別利益につきましては、固定資産売却益など6億90百万円を計上する一方、特別損失としてリース会計基準適用に伴う影響額や固定資産除却損など34億99百万円を計上しました。

特別損益、税金費用、ならびに少数株主利益を加減算した当期純利益は60億20百万円(前期比37.4%の減益)となりました。

セグメント別売上高構成比



セグメント情報

当期 2008年4月1日から2009年3月31日まで (単位: 百万円)

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	174,027	172,004	2,023
水産事業	76,078	75,803	275
畜産事業	92,517	92,548	△ 30
低温物流事業	142,345	134,114	8,231
不動産事業	7,357	3,313	4,043
その他の事業	6,622	6,397	224
計	498,949	484,181	14,767
消去または全社	(24,434)	(24,809)	374
連結	474,515	459,372	15,142

前期 2007年4月1日から2008年3月31日まで (単位: 百万円)

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	175,008	170,895	4,112
水産事業	74,668	75,124	△ 455
畜産事業	83,939	83,330	609
低温物流事業	138,745	130,238	8,506
不動産事業	7,528	3,268	4,259
その他の事業	6,335	6,099	236
計	486,226	468,957	17,268
消去または全社	(22,634)	(22,721)	86
連結	463,591	446,236	17,355

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。  
2. ポイントにおける記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

区 分	当 期	前 期
	2009年3月31日現在	2008年3月31日現在
流 動 資 産	116,589	103,097
固 定 資 産	170,707	154,714
有 形 固 定 資 産	130,921	111,876
無 形 固 定 資 産	4,757	3,671
投 資 そ の 他 の 資 産	35,027	39,166
資 産 合 計	287,296	257,812
流 動 負 債	111,576	81,247
固 定 負 債	62,520	60,076
負 債 合 計	174,096	141,323
株 主 資 本	109,715	107,338
資 本 金	30,307	30,307
資 本 剰 余 金	23,711	23,711
利 益 剰 余 金	56,045	53,678
自 己 株 式	△ 348	△ 359
評 価 ・ 換 算 差 額 等	1,242	6,923
少 数 株 主 持 分	2,241	2,226
純 資 産 合 計	113,199	116,488
負 債 純 資 産 合 計	287,296	257,812

## 貸借対照表のポイント

(括弧内は前期末比の増減)

## POINT

**総資産 2,872億円** (294億円の増加)

- リース会計基準の適用に伴いリース資産193億円を計上
- 金融情勢を勘案したうえで長期借入金を前倒して調達し流動性を確保したことにより現金および預金が154億円増加
- 金融システムの混乱の影響による株価下落や関連会社株式の売却などにより投資有価証券が54億円減少

**負債 1,740億円** (327億円の増加)

- リース会計基準の適用に伴いリース債務225億円を計上
- 長期資金を前倒して調達したことなどにより有利子負債が217億円増加
- 預り保証金が33億円、未払金が38億円それぞれ減少
- リース資産減損勘定16億円を取り崩し

**純資産 1,131億円** (32億円の減少)

- 当期純利益60億円を計上する一方、配当金の支払いで24億円、持分法適用会社の連結除外により11億円それぞれ減少
- 評価・換算差額等56億円減少

## 有利子負債のポイント

## POINT

有利子負債は、金融情勢を勘案のうえ、長期資金の返済・償還や設備投資に備え長期借入金を前倒して調達し、流動性を確保したことなどにより前期より199億円増加し、1,104億円となりました。

有利子負債の状況 (単位:百万円)



## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	当 期	前 期
	2008年4月 1日から 2009年3月31日まで	2007年4月 1日から 2008年3月31日まで
売 上 高	474,515	463,591
売 上 原 価	387,186	373,797
売 上 総 利 益	87,328	89,794
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	72,185	72,439
営 業 利 益	15,142	17,355
営 業 外 収 益	2,090	2,367
営 業 外 費 用	3,061	2,831
経 常 利 益	14,171	16,890
特 別 利 益	690	1,170
特 別 損 失	3,499	1,588
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	11,362	16,472
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	5,443	4,539
法 人 税 等 調 整 額	△ 336	2,081
少 数 株 主 利 益	235	227
当 期 純 利 益	6,020	9,623

## 損益計算書のポイント

(括弧内は前期比の増減)

## POINT

**売上高 4,745億円** (109億円の増収)



- 加工食品事業はアセロラ飲料の不振と市場全体の低迷の影響を受けた家庭用調理冷凍食品の伸び悩みを、業務用調理冷凍食品がカバーし、全体では前期並み
- 水産事業はえび加工品や寿司ネタなど主力商材の販売に注力し増収
- 畜産事業は鶏肉と豚肉が国内の堅調な需要を背景に国産品・輸入品ともに取扱いが大幅に伸張
- 低温物流事業は物流ネットワーク事業の取扱い拡大と地域保管事業の新設の物流センター稼働などにより増収、海外事業も欧州地域・中国(上海)ともに順調に推移

**営業利益 151億円** (22億円の減益)



- 加工食品事業は製品・原材料調達コストの上昇やアセロラ飲料の不振などにより減益
- 水産事業は組織改正による諸経費の削減などにより6期ぶりに営業黒字を計上
- 畜産事業は国内の輸入鶏肉価格の急激な下落などにより減益
- 低温物流事業は燃油サーチャージ負担や急激な運送需要の低迷などにより減益

**経常利益 141億円** (27億円の減益)



- 営業利益の減少により減益

**当期純利益 60億円** (36億円の減益)



- 特別利益 6億円  
・固定資産売却益など
- 特別損失 34億円  
・リース会計基準の適用に伴う影響額17億円、固定資産除却損7億円など

(注)1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。  
2. ポイントにおける記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	当 期	前 期
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
●営業活動によるキャッシュ・フロー	15,282	20,290
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,740	△ 6,443
●財務活動によるキャッシュ・フロー	16,085	△13,919
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,184	288
現金及び現金同等物の増加額	15,442	216
現金及び現金同等物の期首残高	4,121	3,514
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	391
現金及び現金同等物の期末残高	19,564	4,121

## キャッシュ・フロー計算書のポイント POINT

(括弧内は前期比の増減)

**営業活動によるキャッシュ・フロー 152億円の収入(50億円の減少)**

○経常利益は141億円、減価償却費は137億円を計上する一方、賃貸ビル保証金30億円の返還、営業資金(売上債権、たな卸資産、仕入債務)の増加や法人税等の支払いなどにより、152億円の収入

**投資活動によるキャッシュ・フロー 147億円の支出(82億円増加)**

○有形固定資産の取得や株キューレイの株式購入などにより、147億円の支出

**財務活動によるキャッシュ・フロー 160億円の収入(300億円の増加)**

○長期資金の返済・償還や設備投資に備え249億円の長期借入金を調達する一方、リース債務や配当金の支払いなどにより、160億円の収入

以上により、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ154億43百万円増加し195億64百万円となりました。

## 連結株主資本等変動計算書

(2008年4月1日から2009年3月31日まで)

(単位:百万円)

区 分	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等					少数株主 持 分	純資産 合 計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証 券評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
2008年3月31日残高	30,307	23,711	53,678	△ 359	107,338	4,141	△ 101	2,882	6,923	2,226	116,488	
連結会計年度中の変動額												
剰 余 金 の 配 当			△ 2,480		△ 2,480						△ 2,480	
当 期 純 利 益			6,020		6,020						6,020	
持分法の適用範囲の変動			△ 1,173	42	△ 1,131						△ 1,131	
自 己 株 式 の 取 得				△ 48	△ 48						△ 48	
自 己 株 式 の 処 分		△ 0		17	17						17	
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△ 1,899	152	△ 3,933	△ 5,680	14	△ 5,665	
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 0	2,366	11	2,376	△ 1,899	152	△ 3,933	△ 5,680	14	△ 3,288	
2009年3月31日残高	30,307	23,711	56,045	△ 348	109,715	2,241	51	△ 1,050	1,242	2,241	113,199	

## 期末配当金について

当社は、連結株主資本配当率\*(DOE)を基準として安定的な配当の継続を重視するとともに、各事業年度の連結業績などを勘案しながら利益配分を行っていくことで、資本の効率性と利益配分の双方を配当の目標とすることを基本方針としています。

当期の期末配当金につきましては、上記方針のもと、1株につき5円とさせていただきます。これにより、中間配当金4円を加えた年間配当金は、1株につき9円となります。

※株主資本配当率(DOE: Dividend on equity ratio)

株主本来の持分である株主資本に対して、株式会社かどの程度、利益配分による配当を回しているかを表すもの。配当性向とともに株主還元の状態を表す指標の1つです。

## 株 主 メ モ

事業年度	4月1日から翌3月31日まで
定時株主総会	6月
定時株主総会議決権基準日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
上場金融商品取引所	東京・大阪
公 告 方 法	当社公告につきましては、下記ホームページに掲載いたします。 http://www.nichirei.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。
株 主 名 簿 管 理 人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
〔 郵 便 物 送 付 先 〕 〔 電 話 お 問 合 せ 先 〕	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-288-324 受付時間: 9:00~17:00(土・日・祝日を除く)

## 上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の2008年改正(2008年4月30日法律第23号)により、2009年6月にお支払いする配当金について株主様あてに「支払配当金額」や「源泉徴収税額」等を記載した「支払通知書」を通知することとなりました。配当金を配当金領収証にて受け取られる株主様は来年の確定申告手続きに合わせて2009年末~2010年初頭頃に「支払通知書」を送付いたしますのでご覧ください。

なお、口座振込を指定されている株主様は配当金をお受取りの際に送付されている「配当金計算書」が「支払通知書」の代用となりますので、引き続き確定申告の際の添付資料としてご使用ください。

## ご 案 内

- 住所、氏名、配当金の振込先などの変更および単元未満株式の買取り、買増しにつきましては、株主名簿管理人へお問合せのうえ、お手続きください。
- 配当金をゆうちょ銀行貯金口座へお振込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要です。株主名簿管理人に指定用紙をご請求ください。

## ベジポート有限責任事業組合(LLP※)～食品企業と国内農業生産者の共生。



ベジポート有限責任事業組合は、2007年10月に国産野菜の「積出港」との意味で、株式会社ニチレイフーズと千葉県富里市の優良農業生産法人・株式会社テンアップファームとの合併にて設立されました。

当組合は北総・東総地域でトレーサビリティのできた国産野菜の契約栽培を進めると同時に、千葉県旭市に旭センター(本年6月竣工)を建設しました。

旭センターは、従来型の集出荷・選果・調整・包装機能だけでなく、チルド貯蔵・加工(野菜ピューレ・ジュース)機能も有する農業生産物の複合型施設で、契約栽培された野菜をロスなく利活用することができます。

そして、この施設を利活用することと、契約栽培の推進により国産野菜の低コスト化・高品質化・高付加価値化と、農業生産者との「共生」をめざしています。



建物は、建築面積3,536㎡の鉄骨構造。内部は、選果エリアと加工エリアがあり、それぞれ衛生レベルによってゾーンを分けています



屋根とロゴマークは、「ほうれん草のグリーン」、建物外壁の帯に「にんじんのオレンジ」を配色しました



入荷した野菜は選果後、適正な温度帯で保管貯蔵されます。入荷・在庫・出荷情報は、トレーサビリティシステムにより管理されています

### 会社概要 (2009年4月末現在)

社名	: ベジポート有限責任事業組合
所在地	: 千葉県富里市十倉一番地
設立年月日	: 2007年10月1日
組合員	: 株式会社ニチレイフーズ、株式会社テンアップファーム
職務執行者	: 岡本弘正、森田健雄
売上高	: 3億7,600万円(2009年度目標)
従業員数	: 8名
事業内容	: 農産品の生産・仕入・加工・販売業務、農産品生産・加工および経営に関するコンサルティング事業

※LLP: Limited Liability Partnership(有限責任事業組合)の略称で、民法組合と法人との利点を併せ持つ事業体で、構成組合員の合意で運営される。

## 株式会社ニチレイスーコ ～グローバルに健康果実をお届けします。

株式会社ニチレイスーコは、株式会社ニチレイフーズのアセロラ果汁の調達・販売子会社として、設立されました。

ニチレイグループはブラジルの中核事業であった捕鯨事業の後継として、「アセロラ」という果実を日本に広めてから20年以上が経ちました。

アセロラは、ビタミンCを大量に含むスーパーフルーツとして、原産地カリブや南米の人々の健康維持に役立てられていましたが、生のままでは日持ちしないフルーツなので、なかなか市場に出回ることはありませんでした。

そこでニチレイグループの冷凍技術を活用し、果汁原料のビジネスをグローバルに展開し、ベトナムに農場を拡大して、北半球にも一大拠点を設けるに至りました。

我々は、この技術と地元農家の方々との絆を大切にしながら、そのすばらしい健康価値を世界中に提供すべくアセロラ原料事業を立ち上げました。

一人でも多くの皆様がアセロラを摂取し、健康な生活を送っていただくことが我々の願いです。日本だけではなく、欧州を中心にアメリカやカリブ諸島に果汁原料を供給しています。今後は、アジア地区の皆様にもアセロラの健康価値を届けられるように啓発活動を推進していきたいと考えています。



アセロラの花。品種によって淡く白っぽいピンクから赤色まであります



アセロラの果実



アセロラの生産・供給をしているニチレイブラジル農産(有)の農場。アセロラの最適な栽培方法を研究開発しています

### 会社概要 (2009年4月末現在)

社名	: 株式会社ニチレイスーコ
所在地	: 東京都中央区築地二丁目11番10号
設立年月日	: 2008年6月2日
資本金	: 1億円(株式会社ニチレイフーズ100%)
代表者	: 代表取締役 瀬尾広明
売上高	: 8億円(2009年度目標)
従業員数	: 7名
事業内容	: 冷凍果汁・野菜汁、果実、関連食材の輸出入業務および売買業務、飲料の輸出入業務および売買業務

# Key Word

ニチレイグループならではの企業活動やトピックスなどをキーワードによりご紹介します。

## ニチレイグループWebサイトリニューアル



トップページ

株主・投資家情報

沿革「ニチレイ歴史ロード」

ニチレイグループのWebサイトを4年ぶりに全面リニューアルしました。前回は持株会社体制への移行直後(2005年)の改修でしたが、その後、各事業会社ともWebサイトでの積極的な情報発信を活発に行うようになってきました。

今回の改修では、こうした各事業会社の発信情報に、トップページからアクセスしやすくすること、サイト内検索機能を装備したり、階層構造を整理したりすることなどにより、

使い勝手を改善しました。

また、冷凍食品やアセロラだけではないニチレイグループの実像を、わかりやすく紹介するべく、株主・投資家情報(IR)ページの企業理解コンテンツや、沿革コンテンツ、<sup>おりおり</sup>広報誌OriOriからの記事転載など、新しい試みも行っています。

# ニチレイフーズの食育

## 食育への取り組みについて

ニチレイグループは「暮らしを見つめ、人々に心の満足を提供する」の企業理念を基に、「食」に携わる事業者として、食の「安全・安心」をお届けすることはもとより、「食」の楽しさ・すばらしさを生活者に広く伝えるために、様々な食育活動を積極的に行っています。

特にニチレイフーズでは、「笑顔あふれる食卓」をめざし、食育基本法の食品事業者の責務として掲げられている体験活動や情報提供をしています。具体的には、五感を使った食のワークショップや冷凍のサイエンススクール、工場見学などを行いながら、生活者とともに考え実践し、食育活動を推進しています。

## 五感を使った体験コーナー

ニチレイフーズの食育活動として行っている五感を使った食のワークショップをご紹介します。

●1つは「『おいしさ』ってな～に?」という体験コーナー  
これは、「『おいしさ』はどのように感じるのか?」ということを実際に食べ物や飲み物を飲食しながら、味覚と嗅覚の相互関係を体感するものです。

さらに「おいしさ」を表現する言葉をみんなで考え、「おいしさ」の言葉にも様々な表現方法があることを学びます。

●もう1つは「『冷凍』ってな～に?」という体験コーナー  
これは冷凍方法による食品の物性の違い、栄養や風味の保持などの特性を知ります。また-25℃の冷凍倉庫と生産工場の見学を通じて「冷凍」の温度の体験などを行っています。



第3回食育推進全国大会  
アセロラドリンクを使った  
「味と香りの体験コーナー」



-25℃冷凍倉庫体験  
濡れたタオルを振って  
凍らせませす



ニチレイグループは、環境保全活動を継続的に推進しています。

## 各事業会社の環境目標

ニチレイグループ環境方針に基づき、環境目標(2007年度～2009年度の3ヶ年目標)を策定しています。最終年度にあたる2009年度目標を、ご紹介します。

各事業会社	課題	2009年度目標
ニチレイフーズ	廃棄物削減	・ 直営・子会社全生産工場でのごみゼロ達成(12事業所) ・ 生産トン当たりの排出量を2005年度比23%削減
	地球温暖化防止	・ 生産トン当たりのCO <sub>2</sub> 排出量を1999年度比15%削減 ・ 商品輸送時のエネルギー使用量原単位(kL/百万トンキロ)を2006年度比7%削減
	環境配慮商品	売上高当たりのプラスチック容器包装重量を2004年度比8%削減(対象:家庭用商品)
ニチレイフレッシュ	廃棄物削減	全廃棄物再資源化のしくみ構築
	地球温暖化防止	生産トン当たりのCO <sub>2</sub> 排出量を1999年度比15%削減
	環境配慮商品	・ 養殖時の薬剤使用を低減したえびの取扱い拡大 養殖えびに占める売上比率60% ・ FA(Free from Antibiotics)チキン、オーガニックチキンの取扱い拡大 年間取扱い量4,000トン ・ 新たなFA(Free from Antibiotics)商品の開発推進 ・ 循環型の養鶏事業への取組み
ニチレイロジグループ本社	廃棄物削減	最終処分廃棄物量を1999年度比99%削減
	地球温暖化防止	・ エネルギー使用量原単位を2005年度比4%削減(対象:エネルギー管理指定工場) ・ 受託物流におけるCO <sub>2</sub> 排出量原単位を2006年度比3%削減 ・ グリーン経営認証を推進し、45社の協力会社で認証取得
	環境配慮商品	・ 物流共同化などにより環境負荷を低減する事業を推進 ・ 営業提案時に環境配慮のための評価を実施(CO <sub>2</sub> 排出削減量など)
	オフィス	社有車へのエコ車両採用を推進、事務所の省エネルギー・グリーン購入推進
ニチレイバイオサイエンス	廃棄物削減	廃棄物再資源化率98%(開発センター)
	地球温暖化防止	売上高当たりのCO <sub>2</sub> 排出量を2004年度比2%削減(開発センター)
	環境配慮商品	紙製ラベル導入率50%以上
ニチレイプロサーヴ	廃棄物削減	コピー用紙使用量削減 一人当たりの年間使用量7,000枚以下
	地球温暖化防止	本社電力使用量を2005年度比50%削減(照明・コンセント)
	従業員環境意識向上と社会貢献活動の推進	・ 環境教育および社会貢献活動への参加(現活動の継続と追加活動の実施)(2009年度参加率100%)

ニチレイグループWebサイトに『ニチレイグループCSRレポート 2009』を掲載しています。是非、ご覧ください。  
<http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/index.html>

## ニチレイグループ環境活動

ニチレイグループでは、様々な環境活動が行われています。主なものをご紹介します。

### ● ニチレイロジグループ&ニチレイフーズ～環境負荷低減型ロジスティクスの促進

ニチレイロジグループのロジスティクス・プランナーとニチレイフーズは、フェリー会社と共同で九州(鳥栖)～関東(船橋)間での冷凍食品物流におけるエコシップ・モーダルシフト<sup>※1</sup>を導入しました。

従来、同ルートにおける冷凍食品輸送は、冷凍トラックを中心に一部有人冷凍トラックによるフェリー輸送なども使用されていましたが、往路の物量が多く、復路の物量が少ないという貨物量に偏りが生じていました。運送会社の空車リスクが運賃に反映され、結果として荷主であるニチレイフーズがコストの一部を負担していました。また、空車スペースは他顧客との組合せで一部補われていましたが、埋めきれない部分は無駄なCO<sub>2</sub>を排出していました。

そこで、環境対応型ロジスティクスを実現するフェリーのモーダルシフトを導入しました。

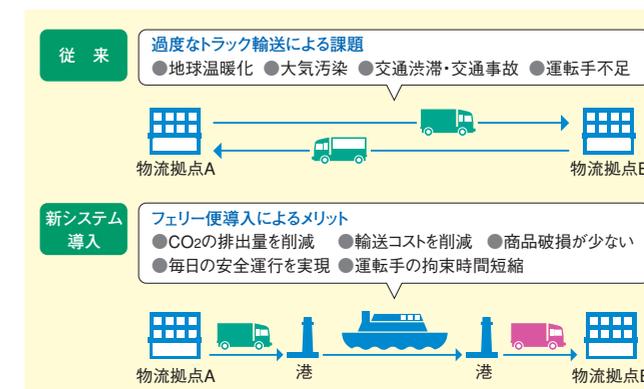
以上の取組みを推進することで、「環境負荷」と「輸送コスト」の

#### ■ 新輸送システム

- ① コンテナの空回送が発生する場合、船腹に余裕があるタイミングを捉えて移動させることで無駄なCO<sub>2</sub>排出を抑制。
- ② 海上運送を無人航送することで、トラック運転手の拘束時間を短縮して労働負荷低減を実現。
- ③ フェリー船社が冷凍コンテナ(温度設定可能)を片道あるいは往復で提供。

低減を同時に達成しています。

そして、今回の取組みにおいてロジスティクス・プランナーとニチレイフーズは、2009年2月4日に国土交通省海事局長より、エコシップ・モーダルシフト優良事業者として表彰されました。



※1 モーダルシフト:交通手段を変更するという意味合いの言葉であるが、交通に関連する環境保全の分野では、より環境負荷の小さい手段に切り替える対策を総称して、このように呼んでいる。運送部門のCO<sub>2</sub>発生量の大半は自動車によるため、狭義にはCO<sub>2</sub>発生量の削減を目的としたトラックによる貨物輸送から、鉄道や船舶に転換することをさすこともある。

### ● ニチレイフレッシュ～グリーン電力証書<sup>※2</sup>の購入

ニチレイでは、グリーン・エネルギー(太陽光、風力、バイオマスなど)の利用を通じた地球温暖化防止活動として「グリーン電力証書」の購入を行っています。2007年1月より年間100万kWhのバイオマス発電を委託し、事業所での使用電力の一部をグリーン電力でまかっています。

2008年度は新たに、ニチレイフレッシュが「こだわりセミナー」の会場で使用した電力(約4,000kWh)相当分についてバイオマス発電によるグリーン電力証書を購入しました。

「こだわりセミナー」はお客様とともに「食」について考える場として、また資源保護や環境との共生に配慮した「こだわり素材」の開発に向けた取組みを紹介する場として毎年開催しています。今回のセミナーで、このグリーン電力証書の購入の取組みが報告されました。



今回の「ニチレイフレッシュこだわりセミナー 2008」では、バイオマス発電所からの4000kWhの電力を利用して、セミナー会場で使用される電力をグリーン電力で補っています。

※2 グリーン電力証書:自然エネルギーによって発電された電力の持つCO<sub>2</sub>排出削減などといった環境付加価値を「グリーン電力証書」という形で具体化し取引を行う。発電所から遠い場所でも自然エネルギーによる電力を使用したとみなし、電力を購入した証明として発行されるのが「グリーン電力証書」。

# Introduction

ご好評の商品をご紹介します。

## 焼おにぎり10個

家庭用



炊きたてのごはんにかつお風味をきかせてふっくら握り、醤油ダレを塗って直火で香ばしく焼きあげたおにぎりです。使い勝手、収納性、環境に配慮し、トレイを外しました。北海道産のお米100%の安心とおいしさをお届けします。

## 10品目のふんわり天75

業務用



白身魚のすり身に豆乳を加え、ふんわりとした食感に仕上げました。玉ねぎ、にんじん、ごぼう、くわい、ひじき、えだまめなどの具材を使用した彩りのよい商品です。

## ジューシーキャベツメンチカツ

家庭用



国産の豚肉とキャベツが詰まったメンチカツです。かつお風味をきかせた中濃ソースをつけて、さらにごはんが進むおいしさに仕上げました。今春のリニューアルにより、4個入から6個入にしました。

## あぶり焼鶏丼の素

業務用



鶏もも肉を直火で焼き、香ばしさと見た目がいよ鶏丼の素に仕上げました。鶏肉は薄くスライスされていますので、並べるだけの簡単調理です。

## 今川焼

(カスタードクリーム)

家庭用



卵黄と生クリームの濃厚な味わいと、しっとりした皮のバランスがおいしいカスタードクリーム入り今川焼です。カスタードクリームのなめらかな口どけに、さらに磨きをかけてリニューアル!

## JA新はこだて森町の みやこかぼちゃのコロッケ

業務用



「JA新はこだて」に限定したこだわり素材、北海道森町の「みやこ」と呼ばれる品種のかぼちゃで作ったコロッケです。「みやこかぼちゃ」はホクホクとした食感が特徴で、その素材の味を引き出すためにシンプルな味付けに仕上げました。

# おいしさひと工夫

当社の商品を使った調理例をご紹介します。



## ライスバーガー

【材料 2個分】

トマト輪切り 2枚、玉ねぎスライス 適宜、  
粒マスタード 小さじ1/2+マヨネーズ 大さじ2、レタス 1枚、サラダ油 少々、  
飾り用：イタリアンパセリ、ブラックオリーブがあれば

- 焼おにぎり 4個
- お弁当にGood! ミニハンバーグ 2個

【作り方】

- ① 焼おにぎりは、パッケージ裏面を参照し、電子レンジで加熱後、サラダ油をひいたフライパンにのせ、フライ返しで軽く押さえながら広げ、香ばしく焼きます。
- ② ミニハンバーグも、パッケージ裏面を参照し、電子レンジで加熱します(この後、①のフライパンで焼くと香ばしいです)。
- ③ ①の焼おにぎり2個の上にそれぞれレタスを敷き、粒マスタードマヨネーズ、トマト、玉ねぎ、ミニハンバーグの順に重ね、粒マスタードマヨネーズ少量をのせます。
- ④ 最後に、残り2個の焼おにぎりをそれぞれ、かぶせます。  
※イタリアンパセリ、ブラックオリーブを添えてください。



## 今川焼カスタードのフルーツケーキ

【材料 4個分】

パイナップル 40g、キウイフルーツ 1/2個、さくらんぼ 4個、ホイップクリーム 適宜

- 今川焼(カスタードクリーム) 2個

【作り方】

- ① 今川焼(カスタードクリーム)は自然解凍し、半解凍のときに横半分にカットします。
- ② パイナップル、キウイフルーツを1cmの角切りにします。
- ③ ①の今川焼のカスタードの周囲にホイップクリームを絞り、②のフルーツを中央にのせ、さくらんぼを飾ります。



## 株式の状況 (2009年3月31日現在)

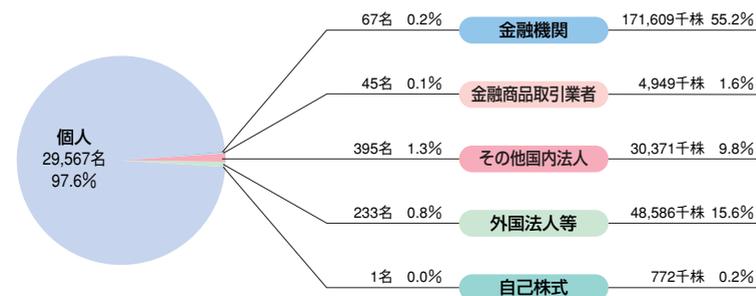
発行可能株式総数 ..... 720,000,000株  
 発行済株式総数 ..... 310,851,065株  
 ※発行済株式総数には、自己株式(772,237株)を含んでいます。  
 単元株式数 ..... 1,000株  
 株主数 ..... 30,308名

### ●大株主

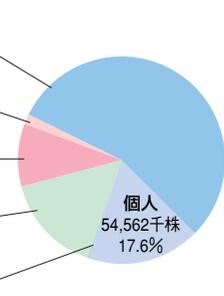
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	24,022	7.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	19,635	6.3
日本生命保険相互会社	16,785	5.4
株式会社みずほコーポレート銀行	15,370	4.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,903	4.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	12,083	3.9
株式会社損害保険ジャパン	11,059	3.6
第一生命保険相互会社	5,716	1.8
みずほ信託株式会社退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	5,598	1.8
農林中央金庫	5,350	1.7

(注) 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

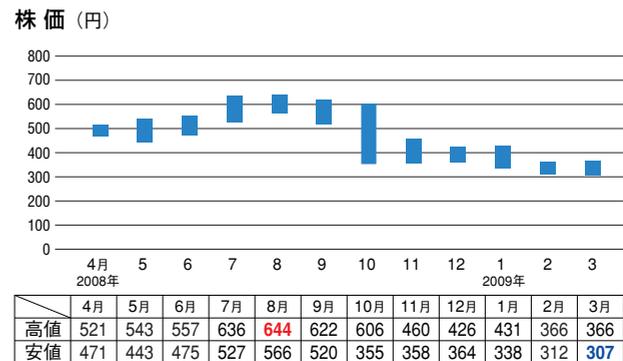
### ●所有者別株主数分布状況



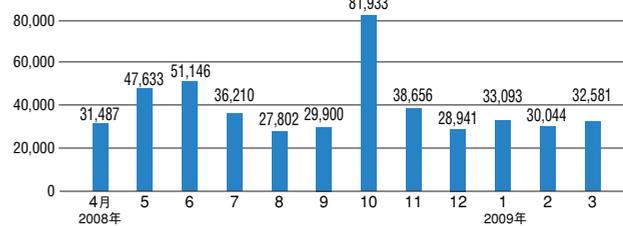
### ●所有者別株式数分布状況



### ●株価チャート



### 出来高 (千株・月間合計)



## 会社概要 (2009年6月24日現在)

社名 株式会社ニチレイ

所在地 〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号  
 ニチレイ東銀座ビル

設立 1942年12月

役員 代表取締役 会長 浦野 光 人  
 代表取締役 社長 村井 利 彰  
 取締役 専務執行役員 相馬 義比古  
 取締役 専務執行役員 長谷川 寿  
 取締役 常務執行役員 三田 勇太郎  
 取締役 執行役員 河合 義 雄  
 取締役 執行役員 荒 剛 史  
 社外取締役 廣瀬 光 雄  
 社外取締役 炭谷 俊 樹  
 社外取締役 川俣 美由里  
 監査役 (常勤) 永塚 一 昭  
 監査役 (常勤) 山口 秀 俊  
 社外監査役 (非常勤) 齊田 國太郎  
 社外監査役 (非常勤) 安念 満  
 執行役員 中村 隆  
 執行役員 山田 達 男  
 執行役員 森 康 益

会計監査人 新日本有限責任監査法人  
 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル

## 株主優待制度について



※写真は2009年度の実施内容です。  
 ※商品パッケージは一部変更される場合があります。

株主の皆様当社および当社商品に対するご理解を深めていただくため、株主優待制度を実施しています。

### ●優待制度の内容 (2009年度)

#### <上等洋食シリーズ>

- たいめいけん ポークカレー
- 小川軒 デミグラスカレー

#### <中華スープ>

- 三絲魚翅ふかひれスープ
- 蟹肉菜湯かのにのスープ

#### <アセロラシリーズ>

- アセロラドリンク 190g缶

### ●対象

毎年3月31日現在の株主名簿に記録された1単元(1,000株)以上保有の株主様を対象とさせていただきます。

### ●お届け時期

6月下旬から7月上旬にお届けいたします。

### ●お問合せ先

**(03) 3248-2101** (代表)

受付時間: 9:00~12:00 13:00~17:30 土・日・祝日を除く